

日本老年医学会 学術集会



ランチョンセミナー24

司会

松井 敏史 先生医療法人社団 大和会 大内病院
東京都認知症疾患医療センター センター長演題
I

高齢者の食欲不振・ フレイルへの研究戦略と 人参養栄湯

【演者】**矢田 俊彦** 先生

自治医科大学医学部 生理学講座 統合生理学部門 教授

演題
II

フレイルに対する 人参養栄湯の作用機構

【演者】**乾 明夫** 先生

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

日時

2017年6月16日(金) 12:10~13:00

会場

**名古屋国際会議場2号館 3階
第19会場 会議室232**【住所】
名古屋市熱田区熱田西町1-1**本学会ランチョンセミナーは、
整理券制です**

【整理券配布場所】

名古屋国際会議場 1号館1階
アトリウム騎馬像横 整理券配布所

【整理券配布日時】

6月16日(金) 7:45~11:30

※整理券がなくなり次第、配布を終了いたします。

【整理券有効時間】

整理券は、セミナー開始直後に
無効となります。

演題Ⅰ

高齢者の食欲不振・フレイルへの研究戦略と人参養栄湯

演者

矢田 俊彦 先生

自治医科大学医学部 生理学講座 統合生理学部門 教授

高齢者のフレイルは現代社会の深刻な問題である。フレイルは体重低下、疲労感、心身活動性低下を含む複合病態であるが、最上流に食欲不振がある。食欲は、空腹時の胃ホルモン-グレリン増加と血糖値低下により視床下部摂食中枢のNPY/AgRPニューロンが活性化されて創出されるが、この経路は加齢により低下する。胃癌患者は、胃全摘後に食欲、体重、心身活動性が低下し、しばしばフレイル様症状を呈する。胃全摘ラットは摂食・体重低下を示し、腸ホルモン-GLP-1濃度が食後・空腹時共に上昇し、GLP-1受容体阻害剤は摂食・体重低下を改善する。

人参養栄湯などの補剤および多成分系を特徴とする漢方には、これらの過程に作用して食欲を増強しフレイルを改善する作用がある。本講演では、基礎～臨床展開研究から、人参養栄湯と漢方の摂食増強を起点とした抗フレイル、抗加齢のストラテジーを提案する。

ご略歴

1983年	京都大学大学院医学研究科博士課程修了
1983年	東京医科歯科大学医学部生理学第二講座助手
1984年	米国マイアミ大学研究員
1986年	米国コーネル大学研究員
1987年	鹿児島大学医学部生理学第一講座助教授
1991年 ～ 1993年	米国チューレーン大学客員助教授
2000年	自治医科大学医学部生理学講座統合生理学部門教授
2009年 ～ 2015年	自然科学研究機構生理学研究所客員教授
	現在に至る

演題Ⅱ

フレイルに対する人参養栄湯の作用機構

演者

乾 明夫 先生

鹿児島大学大学院 心身内科学分野 教授

高齢化の進む我が国において、予防医学の立場から注目されているのが、サルコペニアを基礎としたフレイル (frailty) である。フレイルは補剤の良い適応であり、多成分系を特徴とする漢方は、多様な身体疾患や食欲不振・不安・抑うつ・認知など、心身両面の異常を示すフレイルの治療に威力を発揮するものと期待される。

人参養栄湯は最強の補剤とも称され、がんの緩和医療などに広く応用されてきた。本講演では、健康長寿に及ぼす人参養栄湯の作用とその薬理学的メカニズムを、エビデンスをもとにまたアンチエイジングの立場から述べてみたい。

ご略歴

1978年 3月	神戸大学医学部卒業
1978年 6月	神戸大学医学部附属病院医員 (研修医) に任用
1984年 7月	神戸大学医学部助手に任用
1997年 12月	神戸大学医学部附属病院講師に任用
2000年 1月	神戸大学医学部助教授に任用
2001年 4月	神戸大学大学院医学系研究科 応用分子講座 消化器代謝病学分野 (旧二内科) 助教授に任用
2004年 10月	神戸大学病院 糖尿病代謝内科診療科長に任用
2005年 1月	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 社会・行動医学講座 行動医学分野 (現心身内科学分野) 教授 及び 鹿児島大学病院 呼吸器・ストレスケアセンター 心身医療科診療科長に任用
2009年 4月	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 健康科学専攻長に任用
2012年 7月	鹿児島大学病院 漢方診療センター長に任用
	現在に至る